

A 論説文「余白を引き受ける地図」

高校入試・標準～応用 | 解答と根拠 | 32点

表現が違ってても、必要な内容・字数・問いの条件を満たす答案は認めます。別解は許容する内容の例です。

問1 文脈上の語句〔2点〕

答え ウ

解説 必要でない情報を省くからこそ、目的地への道筋が見えやすくなるという、二つの側面の結び付きである。アは分かりやすさを失わせるとして逆転し、イは地図の正誤に置き換え、エは利用後の評価という本文にない条件を加えている。

別解・許容 なし

採点の目安 正答で2点。誤答・無答は0点。

問2 具体例の比較〔2点〕

答え ア

解説 二つの例は、同じ道でも利用者や目的によって優先する情報が違うことを示す。イの移動速度の優劣、ウの全情報の必要性、エの利用者を固定する必要性は述べられていない。

別解・許容 なし

採点の目安 正答で2点。誤答・無答は0点。

問3 指示内容の特定〔3点〕

答え 生徒がすでに持っている経験

解説 第3段落の「生徒がすでに持っている経験が、地図の空白を埋めている」が根拠。地図そのものの性能と、生徒の側にある経験とを区別する。

別解・許容 なし

採点の目安 正答で3点。誤答・無答は0点。

A 論説文「余白を引き受ける地図」

高校入試・標準～応用 | 解答と根拠 | 32点

解答・解説 つづき

問4 反論の理解 (3点)

答え エ

解説 情報が正確でも、印が重なれば必要な情報を見つけにくいという問題がある。アは情報の真偽と取り違え、イは筆者が目的とする選び方を否定し、ウは更新の話を加えている。

別解・許容 なし

採点の目安 正答で3点。誤答・無答は0点。

問5 段落間の関係 (3点)

答え イ

解説 第4段落の「選び、その情報にたどり着く道筋を整える」を、紙面を分け、参照先を添える方法で具体化している。アは対立を誤認し、ウは実測の結果ではなく例示である点を外し、エは第3段落の話と混同している。

別解・許容 なし

採点の目安 正答で3点。誤答・無答は0点。

問6 主張の適用 (3点)

答え ウ

解説 何を主に紹介するかを示し、省いた情報への参照先を案内するウが第5・7段落に合う。アは省略を隠し、イは情報量だけを優先し、エは利用者の声による修正を閉ざしている。

別解・許容 なし

採点の目安 正答で3点。誤答・無答は0点。

A 論説文「余白を引き受ける地図」

高校入試・標準～応用 | 解答と根拠 | 32点

解答・解説 つづき

問7 要点の抜き出し〔3点〕

答え 選び方そのもの

解説 修正は情報を増やすことに限らず、何をどこに示すかという選択を見直すことだとまとめている。

別解・許容 なし

採点の目安 正答で3点。誤答・無答は0点。

問8 理由の記述〔4点〕 解答例48字

解答例 主に示す範囲を伝えたくて、省いた情報をどこで確かめられるかも知らせ、必要な情報へ近づけるから。

解説 一枚で完結しない点だけに注目せず、①説明の範囲を明示する、②別の情報への道筋を残す、という二つの役割を結び付ける。

別解・許容 この地図で分かる範囲と、ほかの情報を確認する場所を示し、使う人が必要な情報を探せるようにするから。

採点の目安 範囲の明示が1点、省いた情報の確認先を示すことが2点、必要な情報に近づけるという理由の結び付きが1点。指定語句の不足または字数条件違反があれば、内容点から合計1点を減点する（0点未満にしない）。

A 論説文「余白を引き受ける地図」

高校入試・標準～応用 | 解答と根拠 | 32点

解答・解説 つづき

問9 文章構成〔4点〕

答え ア

解説 第1段落で省略の利点を示し、第2～4段落でその条件や限界を検討し、第5・6段落で方法を示したうえで、第7段落で地図以外の説明にも広げている。イは全廃、ウは比較対象、エは過去の歴史という本文にない構成を含む。

別解・許容 なし

採点の目安 正答で4点。誤答・無答は0点。

問10 要旨の記述〔5点〕 解答例54字

解答例 目的に応じて情報を選び、その基準と省いた情報の確かめ方を示し、使い手の問いや経験を受けて選び方を見直す責任。

解説 第4・5段落の情報の選択と参照先、第6段落の使い手とのやり取り、第7段落の結論を統合する。「全部書く」「短くする」だけでは要旨にならない。

別解・許容 誰に何を伝えるかに応じて情報を選び、説明の範囲と別の情報への道筋を示して、使い手の疑問に応じて修正すること。

採点の目安 目的・使い手に応じた選択が1点、基準または説明の範囲の明示が1点、省いた情報を確認できる道筋が1点、使い手の問いを受ける姿勢が1点、選び方・説明を見直すことが1点。字数条件違反は内容点から1点減点（0点未満にしない）。

B 小説「三秒の間」

高校入試・標準～応用 | 解答と根拠 | 32点

表現が違ってても、必要な内容・字数・問いの条件を満たす答えは認めます。別解は許容する内容の例です。

問11 行動の理由 (2点)

答え イ

解説 第2段落で「時間が足りない」「何も話していない」と説明し、止まらずにはっきり流れる声をよい放送と考えている。アの小野さんへの不満、ウの機械故障、エの紗季との競争は根拠がない。

別解・許容 なし

採点の目安 正答で2点。誤答・無答は0点。

問12 背景と心情 (2点)

答え エ

解説 失敗以来、つかえに敏感になったという因果が明示されている。アの部員の評価、イの読み方の上達、ウの責任逃れは本文にない。

別解・許容 なし

採点の目安 正答で2点。誤答・無答は0点。

問13 言葉の抜き出し (3点)

答え また明日

解説 小野さんは、大きな出来事ではなく、雨の日にすれ違った生徒の言葉を思い出している。第4段落の該当表現は一か所。

別解・許容 なし

採点の目安 正答で3点。誤答・無答は0点。

B 小説「三秒の間」

高校入試・標準～応用 | 解答と根拠 | 32点

解答・解説 つづき

問14 心情の推測 (3点)

答え ア

解説 昼休みは残っており、物理的に遅れたのではない。小野さんの思い出を探す時間を知り、自分が間の意味を考えず編集を急いでいたことに気付いたと読める。イ・ウ・エには本文上の根拠がない。

別解・許容 なし

採点の目安 正答で3点。誤答・無答は0点。

問15 表現の意味 (3点)

答え ウ

解説 以前は波形を音量や編集対象として見ていたが、今は息遣い、思い出す間、言葉の明るさを聞き取っている。アは機械的操作、イは文章化、エは新しい録音という本文にない内容である。

別解・許容 なし

採点の目安 正答で3点。誤答・無答は0点。

問16 会話の働き (3点)

答え イ

解説 紗季は聞き間違いと思われる可能性を否定せず、「そのあとの声」まで聞いてもらおうと促す。アの危険の否定、ウの決定の肩代わり、エの聞き手の責任への転嫁とは異なる。

別解・許容 なし

採点の目安 正答で3点。誤答・無答は0点。

B 小説「三秒の間」

高校入試・標準～応用 | 解答と根拠 | 32点

解答・解説 つづき

問17 動作と心情 (3点)

答え エ

解説 手を伸ばす動作には間への不安が残る一方、離す動作には間の後の声を届けようとする判断が表れる。アは音量調整を実行しておらず、イは故障の根拠がなく、ウは紗季の指示がない。

別解・許容 なし

採点の目安 正答で3点。誤答・無答は0点。

問18 理由の記述 (4点) 解答例53字

解答例 波形だけを見て間を不要と決めず、間の前後にある息遣いや声の調子を聞いて、伝わるもの確かめようとしたから。

解説 第6段落で波形の見え方が変わったこと、第7段落で実際に画面を伏せて聞き直す行動を結び付ける。画面の故障や目の疲れを理由にしない。

別解・許容 音量の形だけで間を削るのではなく、思い出す時間とその後の声を耳で受け止めて、放送を確かめたかったから。

採点の目安 波形・見た目だけで不要と判断しないことが2点、間と前後の声を聞き、伝わる内容を確認することが2点。字数条件違反は内容点から1点減点（0点未満にしない）。

B 小説「三秒の間」

高校入試・標準～応用 | 解答と根拠 | 32点

解答・解説 つづき

問19 反復される物の役割 (4点)

答え ア

解説 第3段落で「裏返して別の名前を書ける」と説明され、最後には古い名前と白い裏が並べて示される。過去が残りながら、別の使い方へ開かれている物として結末に余韻を与える。イの約束、ウの使えない判断、エの忘却の願いは書かれていない。

別解・許容 なし

採点の目安 正答で4点。誤答・無答は0点。

問20 人物の変化の記述 (5点) 解答例62字

解答例 初めは間を放送から削るべきものと考えたが、小野さんが思い出を探していたと気づき、相手や自分が言葉を選ぶ時間として受け止めた。

解説 冒頭の削除、第4～6段落の気づき、終わりの「言葉を選んでいる間」と「次の言葉をすぐに探さず」を対応させる。「間なら必ず残す」という一般化はしない。

別解・許容 止まらない声がよいと考え間を削ろうとしたが、小野さんの思い出を知り、考えて言葉を選ぶ時間にも意味があると捉えるようになった。

採点の目安 初めは不要・削る対象と捉えたことが1点、小野さんが思い出を探していたと知るきっかけが2点、最後は言葉を選ぶ時間・意味のある時間として受け止めたことが2点。字数条件違反は内容点から1点減点(0点未満にしない)。

C 複数資料「放課後の学習室を考える」

高校入試・標準～応用 | 解答と根拠 | 36点

表現が違ってても、必要な内容・字数・問いの条件を満たす答えは認めます。別解は許容する内容の例です。

問21 調査対象と回答者〔2点〕

答え 75

解説 全校生徒240人のうち180人が回答している。 $180 \div 240 \times 100 = 75\%$ 。表の「利用あり」の72人を分母にしない。

別解・許容 75%

採点の目安 正答で2点。誤答・無答は0点。

問22 表の全体傾向〔2点〕

答え ウ

解説 合計欄は順に60人、48人、42人、30人で、時間の延長が最多。42人を時間延長の全体人数とするのは、「利用なし」の行との混同である。

別解・許容 なし

採点の目安 正答で2点。誤答・無答は0点。

問23 集団を限定した読み〔2点〕

答え 席数増加・30人

解説 「利用あり」の行だけを見ると、 $18 \cdot 12 \cdot 30 \cdot 12$ 人で席数増加が最多。全体の最多項目と区別する。

別解・許容 席を増やすこと、30人

採点の目安 希望が正しければ1点、人数が正しければ1点。

C 複数資料「放課後の学習室を考える」

高校入試・標準～応用 | 解答と根拠 | 36点

解答・解説 つづき

問24 調査の限界 (3点)

答え イ

解説 全校240人に配っていても、回答は180人で、未回答60人の希望は不明。アは全員回答と誤認し、ウは利用なしの回答の価値を否定し、エは無記名による信頼性を過大評価している。

別解・許容 なし

採点の目安 正答で3点。誤答・無答は0点。

問25 事実と予測の区別 (3点)

答え エ

解説 表が示すのは希望の選択であり、延長後の参加意思や利用可能な曜日ではない。「42人全員が来る」は、希望から実際の行動を断定している。ア・イ・ウは表から確認できる事実。

別解・許容 なし

採点の目安 正答で3点。誤答・無答は0点。

問26 対話と根拠の対応 (3点)

答え ア

解説 全体の順位だけでなく、利用あり72人の中では増席希望30人が最多という事実に着目している。イ・ウは人数自体は表にあるが主張の直接の根拠でなく、エは表と一致しない。

別解・許容 なし

採点の目安 正答で3点。誤答・無答は0点。

C 複数資料「放課後の学習室を考える」

高校入試・標準～応用 | 解答と根拠 | 36点

解答・解説 つづき

問27 複数資料の統合 (3点)

答え ウ

解説 希望者は48人いるが、別室にはもう一人の先生が必要で、試行時は増員できない。希望の存在と実施可能性を別々に判断する。アは希望者を否定し、イは教員条件を無視し、エは希望人数を誤読している。

別解・許容 なし

採点の目安 正答で3点。誤答・無答は0点。

問28 必要情報の整理 (3点)

答え 曜日・閉室時刻・席数

解説 資料4冒頭の列举を押さえる。延長できる曜日や実際に使える時間・席数が分からなければ、利用する判断ができない。調査の回答期間とは区別する。

別解・許容 試行する曜日、何時に閉まるか、用意する席の数

採点の目安 曜日・閉室時刻・席数をそれぞれ1点。「開室する曜日」「終了時刻」「座席数」など同じ意味を認める。

問29 記録の目的 (3点)

答え イ

解説 資料1は継続について「利用の状況と先生の負担を見て」判断するとしている。追加対応時間は負担を把握する手掛かり。アの人気順位、ウの学力、エの不正は測れない。

別解・許容 なし

採点の目安 正答で3点。誤答・無答は0点。

C 複数資料「放課後の学習室を考える」

高校入試・標準～応用 | 解答と根拠 | 36点

解答・解説 つづき

問30 結果の解釈 (3点)

答え エ

解説 二つを同時に変えるため、増加を一方だけの効果と分けて判断できない。組み合わせた運営を検討する材料にはなるが、他の時期的要因などの可能性も残る。ア・イは一方への断定、ウは必要以上の一般化。

別解・許容 なし

採点の目安 正答で3点。誤答・無答は0点。

問31 条件に即した提案の評価 (4点)

答え ア

解説 火・木曜の30分延長、4席増の28席は条件内。利用状況と負担を調べ、継続を後から判断する点も一致する。イは毎日の延長と永久決定、ウは別室の人員、エは席数の上限に反する。

別解・許容 なし

採点の目安 正答で4点。誤答・無答は0点。

問32 資料を根拠にした提案の記述 (5点) 解答例71字

解答例 全体では延長、利用ありでは増席の希望が最多なので、火・木曜を三十分延長し四席増やして試す。満席による利用不可人数と先生の対応時間を確かめたい。

解説 多数の希望だけで決めず、全体と利用者層の二つの傾向を根拠にする。実施条件を満たした案と、利用の状況・運営の負担を調べる方法を合わせて示す。効果を断定しない。

別解・許容 延長希望が全体で、増席希望が利用ありで最多のため、火・木曜は三十分延長し二十八席で試す。利用者数や利用できない人数、先生の負担を確認する。

採点の目安 全体で延長希望が最多という根拠が1点、利用ありで増席希望が最多という根拠が1点、火・木曜に30分以内の具体的な延長をする案が1点、4席までの増席（合計28席まで）の案が1点、利用状況と先生の負担の両方を確認することが1点。字数条件違反は内容点から1点減点（0点未満にしない）。